

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成27年 1月～3月実績

平成27年 4月～6月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井北、福井東、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 平成27年1～3月期実績及び4～6月期見通し
7. 調査時点 平成27年3月1日（日）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合から

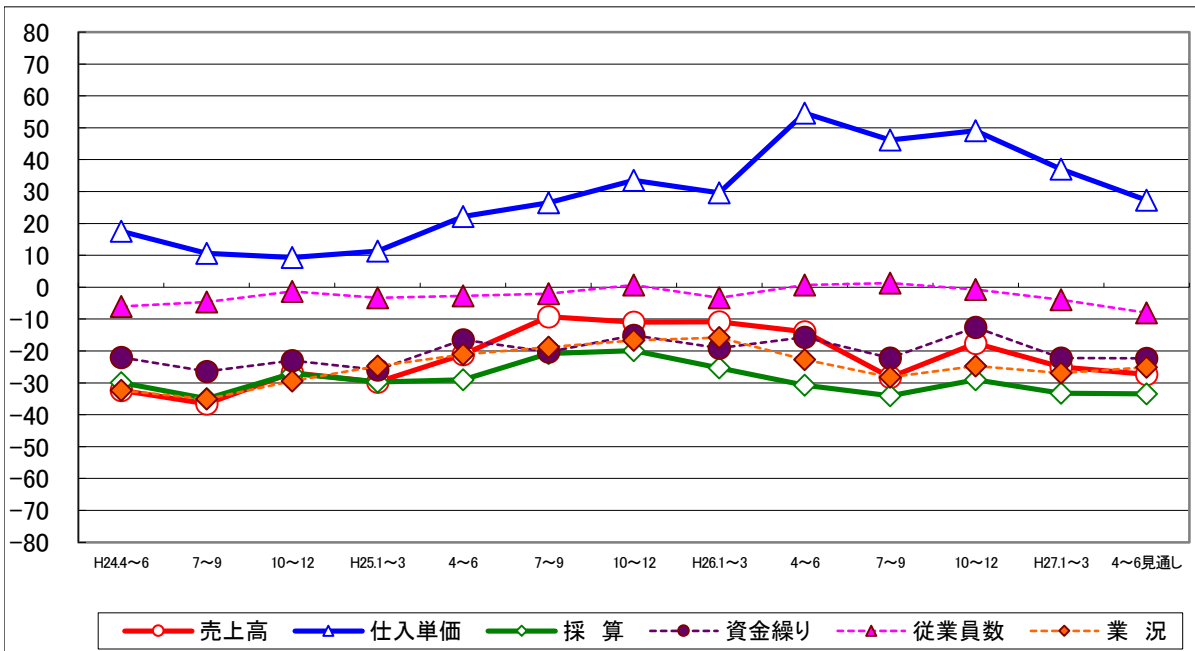
DI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

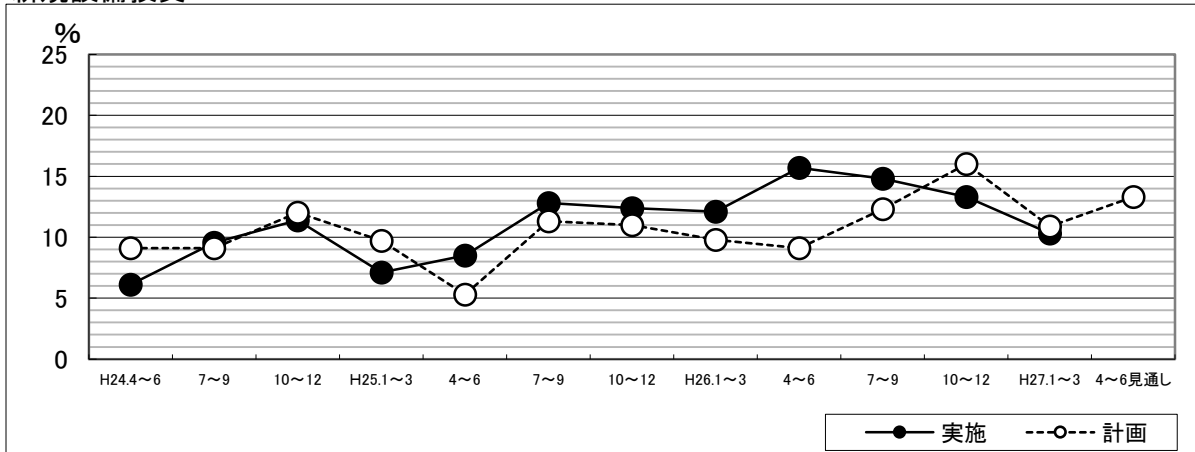
全体（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向推移（前年同期比：DI値）

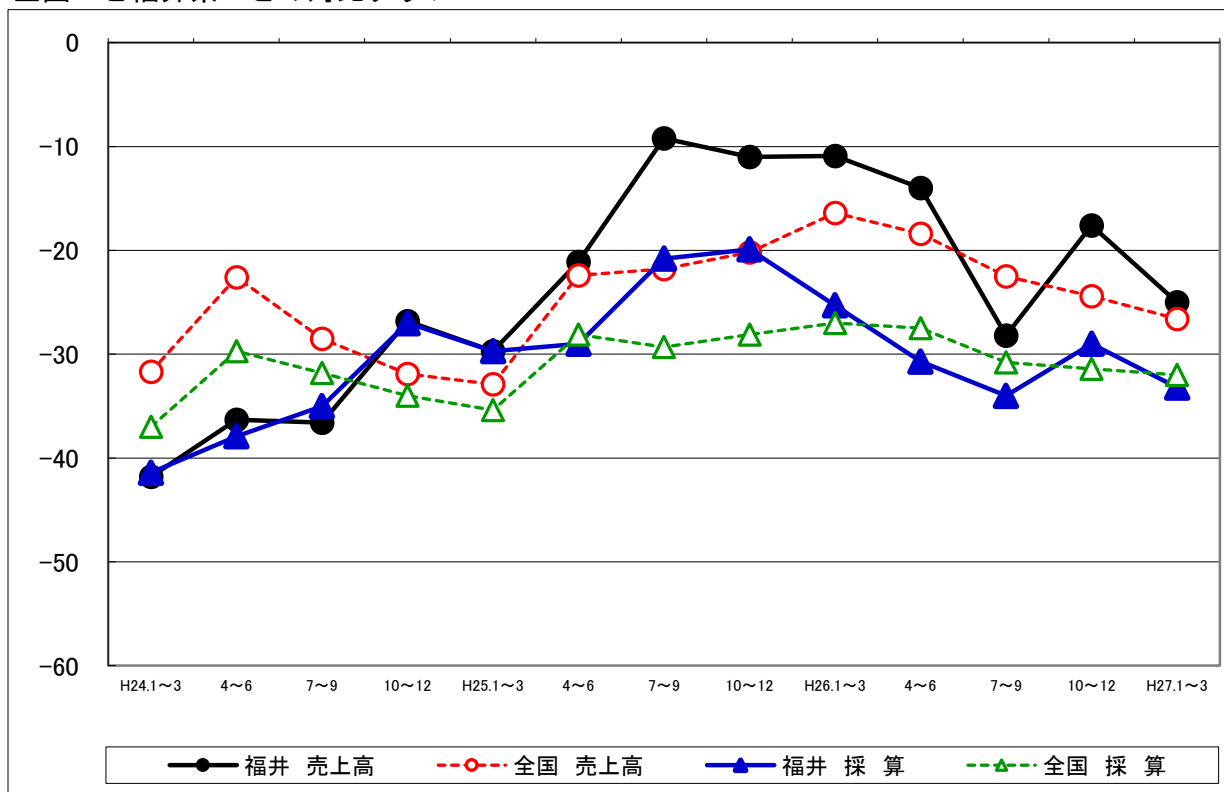
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.4~6	▲ 32.3	17.6	▲ 29.9	▲ 22.0	▲ 6.0	▲ 32.3
7~9	▲ 36.6	10.6	▲ 35.0	▲ 26.4	▲ 4.6	▲ 35.1
10~12	▲ 26.8	9.3	▲ 27.0	▲ 23.0	▲ 1.3	▲ 29.4
H25.1~3	▲ 29.7	11.3	▲ 29.7	▲ 25.9	▲ 3.3	▲ 24.7
4~6	▲ 21.1	22.2	▲ 29.0	▲ 16.5	▲ 2.7	▲ 21.1
7~9	▲ 9.2	26.5	▲ 20.8	▲ 20.3	▲ 2.0	▲ 18.8
10~12	▲ 11.0	33.5	▲ 19.9	▲ 15.1	0.7	▲ 16.7
H26.1~3	▲ 10.9	29.6	▲ 25.3	▲ 19.1	▲ 3.3	▲ 15.8
4~6	▲ 14.0	54.6	▲ 30.7	▲ 15.7	0.7	▲ 22.7
7~9	▲ 28.2	46.2	▲ 34.0	▲ 22.2	1.3	▲ 28.2
10~12	▲ 17.6	49.1	▲ 29.0	▲ 12.6	▲ 0.7	▲ 24.7
H27.1~3	▲ 25.0	37.0	▲ 33.2	▲ 22.2	▲ 3.9	▲ 26.9
4~6見通し	▲ 27.3	27.3	▲ 33.4	▲ 22.3	▲ 8.0	▲ 25.1



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成27年1-3月期の福井県経済を概観すると、企業部門では原油安や低金利など良好な経営環境が続く中、生産面では電子部品・デバイスが着実に増加しているほか、化学が高水準の生産を維持するなど順調に推移、設備投資も増加基調を維持している。また、家計部門も、雇用・所得環境の改善傾向を背景に個人消費の持ち直しが続いており、総じてみれば緩やかに回復している。

しかし、今期（H27年1-3月期）の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち、仕入単価（逆指数）（前期49.1→今期37.0）を除く5項目が前期比で悪化となり、中小・小規模企業が多い福井県においては、いまだ景況感にバラツキがあることをうかがわせる結果となった。

ちなみに、仕入単価以外の項目別動向をみると、売上高が前期▲17.6→今期▲25.0へ、採算が前期▲29.0→今期▲33.2へ、資金繰りが前期▲12.6→今期▲22.2へ、従業員数が前期▲0.7→今期▲3.9へ、業況が前期▲24.7→今期▲26.9へと悪化している。

これらを総合すると、県内中小企業では、原油安の影響などから仕入単価の低下がみられるものの、売上高、それに伴う採算、資金繰りなど多くの面でいまだ厳しい経営環境にあることが読み取れる。

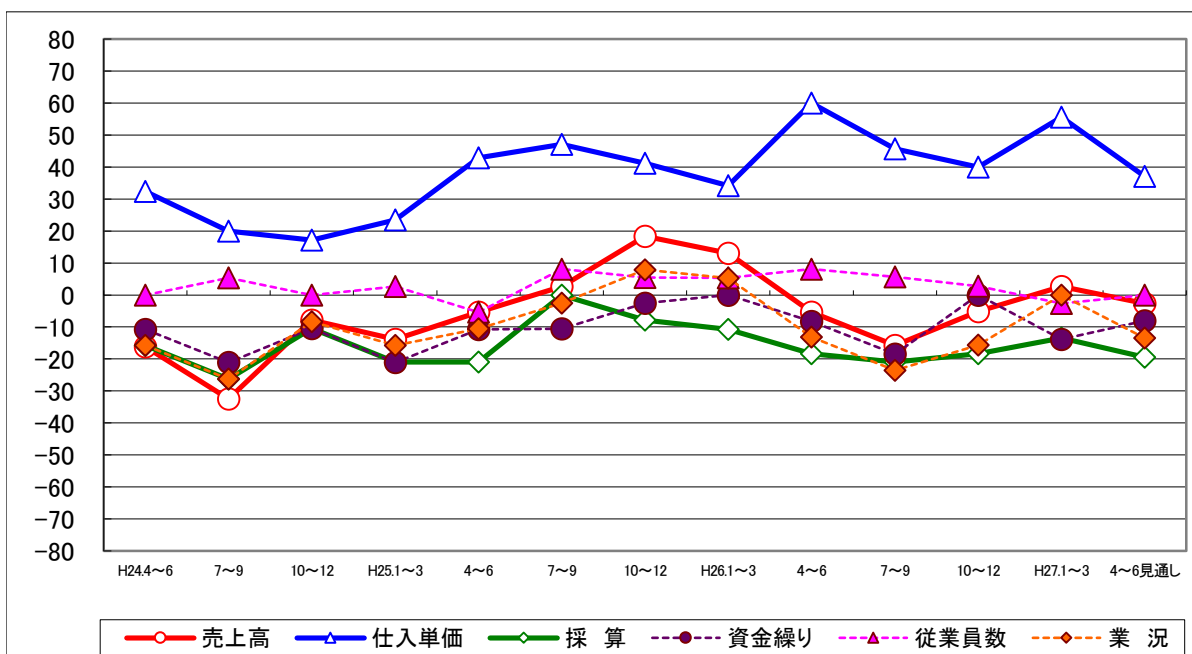
また、来期（H27年4-6月期）の見通しについては、仕入単価の改善がさらに進み業況悪化が収まるものの、売上高、採算、資金繰りなど現状並みの横ばいで推移する見込みとなっているほか、人手不足感もさらに強まることが予想される。売上高と採算のDI値を全国と比較すると、今期、売上高は全国に比べ落ち込みが少ないが、採算は全国より僅かながら悪化傾向が強くあらわれている。

一方、今期の新規設備投資については、計画の10.9%に対して実施が10.3%にとどまったものの、先行き（H27年4-6月期）については、何らかの投資を計画している企業が13.3%とやや増加基調となっている。

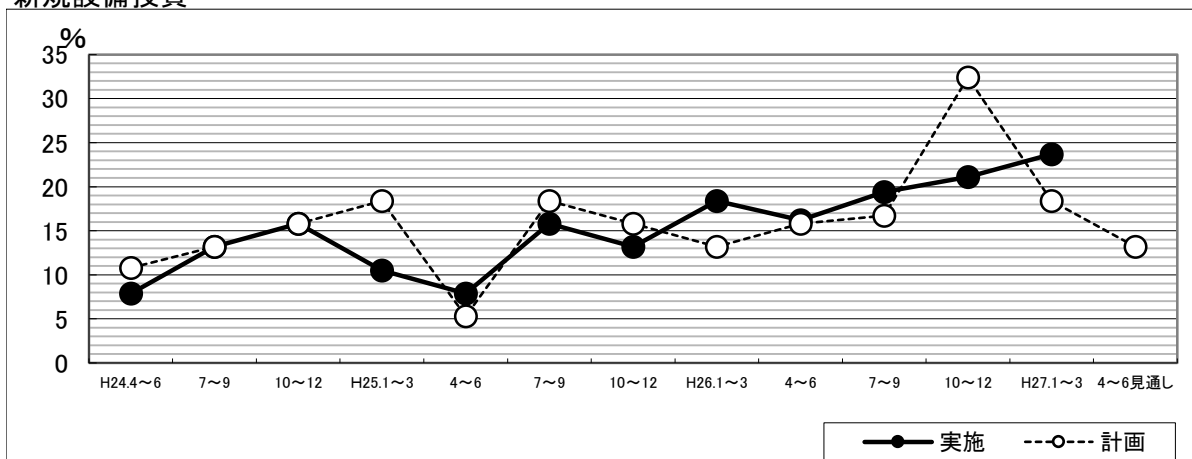
製造業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

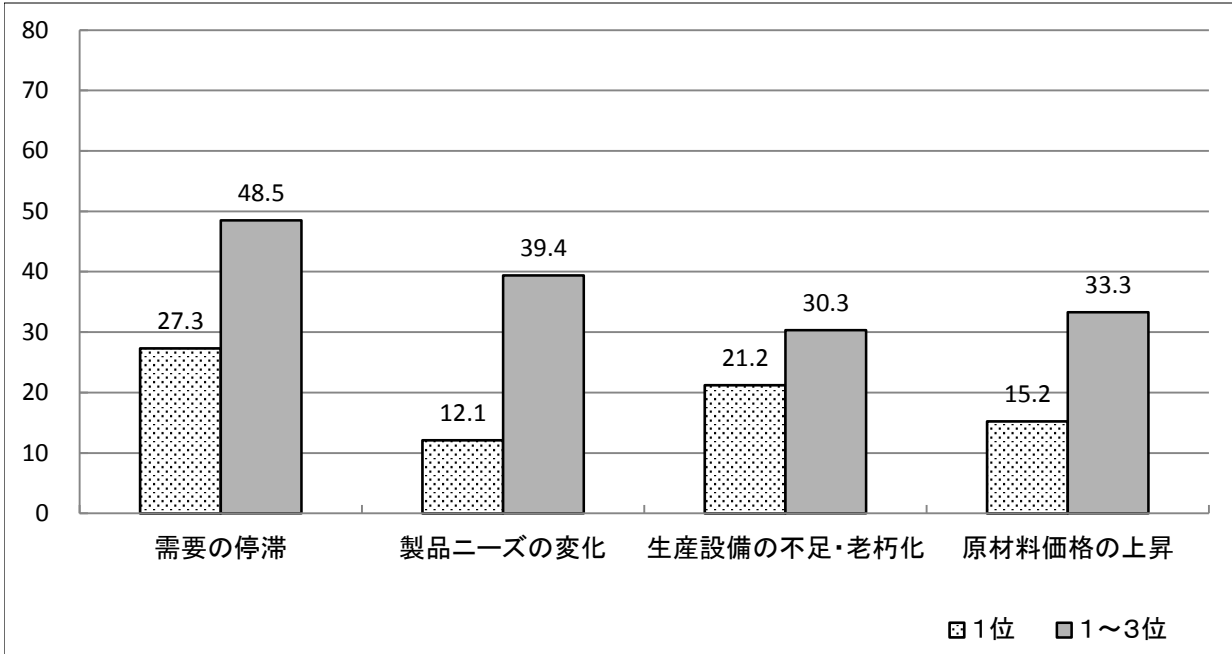
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.4~6	▲ 16.2	32.4	▲ 15.8	▲ 10.8	0.0	▲ 15.8
7~9	▲ 32.5	20.0	▲ 26.3	▲ 21.1	5.4	▲ 26.3
10~12	▲ 7.9	17.2	▲ 10.5	▲ 10.5	0.0	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 13.9	23.5	▲ 21.0	▲ 21.1	2.7	▲ 15.8
4~6	▲ 5.4	42.9	▲ 21.0	▲ 10.8	▲ 5.4	▲ 10.6
7~9	2.7	47.1	0.0	▲ 10.6	8.1	▲ 2.6
10~12	18.4	41.2	▲ 7.9	▲ 2.6	5.5	7.9
H26.1~3	13.1	34.2	▲ 10.8	0.0	5.4	5.3
4~6	▲ 5.4	60.0	▲ 18.4	▲ 8.3	8.1	▲ 13.2
7~9	▲ 15.8	45.7	▲ 21.0	▲ 18.5	5.7	▲ 23.6
10~12	▲ 5.2	40.0	▲ 18.4	0.0	2.8	▲ 15.7
H27.1~3	2.7	55.6	▲ 13.5	▲ 13.9	▲ 2.7	0.0
4~6見通し	▲ 2.7	37.1	▲ 19.5	▲ 8.1	0.0	▲ 13.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・原材料の大幅な価格上昇により、値上げを実施する予定であるが取引量は減少することが見込まれる。取引先との関係から大幅な値上げは困難である。
- ・加工賃は上がらないにもかかわらず、賃金、社会保険料といった人件費だけは毎年上がっており厳しい状況にある。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維や眼鏡枠といった地場産業では、円安や政策効果の期待感もあり、海外向けなどの一部品目に受注の改善がみられるものの、総じて原材料のコストアップを価格転嫁しきれないことなどから、依然厳しい経営環境を余儀なくされている。

しかし、主力の電気機械では、電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に、機械関連も工作機械や金属加工機中心に、堅調な生産・出荷動向を維持しており、業種間、企業規模間格差はぬぐえないものの、全体としては持ち直している。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、仕入単価（逆指数）（前期40.0→今期55.6）、資金繰り（前期0.0→今期▲13.9）、従業員数（前期2.8→今期▲2.7）の3項目で悪化。売上高（前期▲5.2→今期2.7）、採算（前期▲18.4→今期▲13.5）、業況（前期▲15.7→今期▲0.0）の3項目で改善がみられるなど項目間でバラツキがみられた。

この結果から、県内中小企業では人手不足感は拭えないものの、売上高の上昇から業況の改善が進んだものの、一時的とはいえ仕入単価が悪化したことから資金繰り面で苦慮する企業がやや増えたことをうかがわせている。

また、先行き（H27年4-6月期）については、仕入単価、資金繰り、従業員数で改善、売上高、採算、業況で悪化予想となるなど、引き続きまだら模様が続くことが予想される。

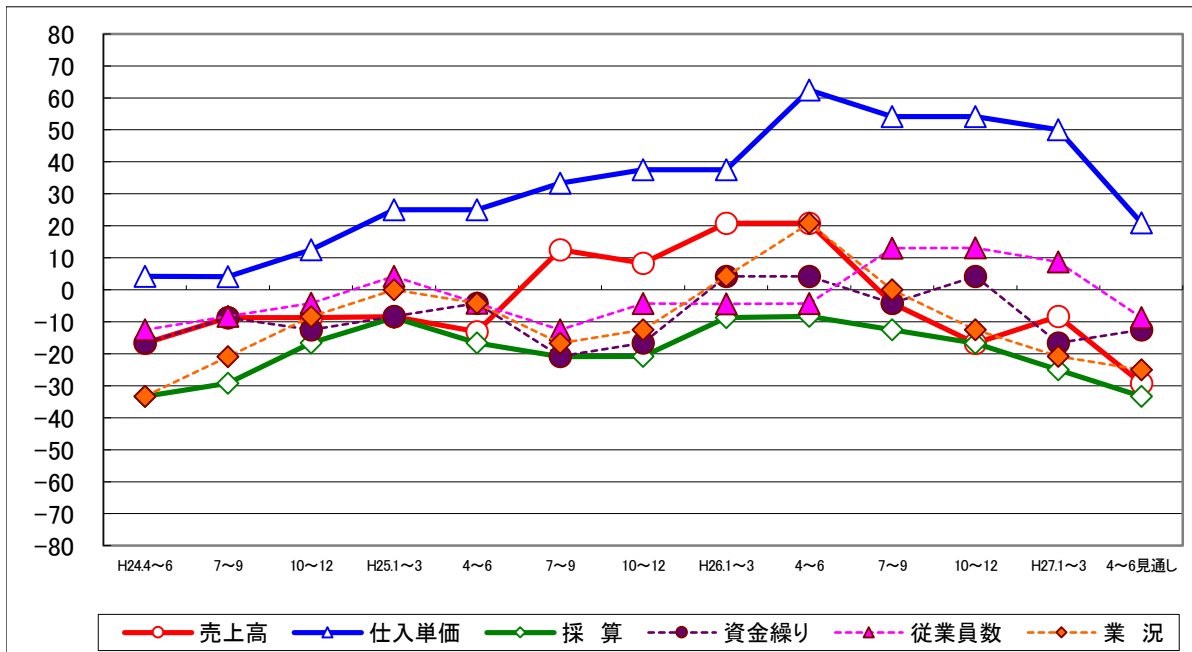
一方、新規設備投資の実施状況については、計画の18.4%に対し実施が23.7%と、実施が計画を上回ったものの、先行きについては、何らかの投資を予定する企業が13.2%にとどまるなど、やや低下する見込みである。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」への指摘で1位に挙げた企業ウエイトが27.3%と最も多く、1位～3位までに挙げた企業も48.5%を占めた。持ち直し感が出ているとはいえ、先行きの需要に対する懸念はまだまだ大きい。そのほか、「製品ニーズの変化」についても1位に挙げた企業は12.1%にとどまったものの、1位～3位の指摘は39.4%と比較的多い。その他、「生産設備の不足・老朽化」への指摘が1位に挙げた企業ウエイト21.2%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト30.3%となっている。

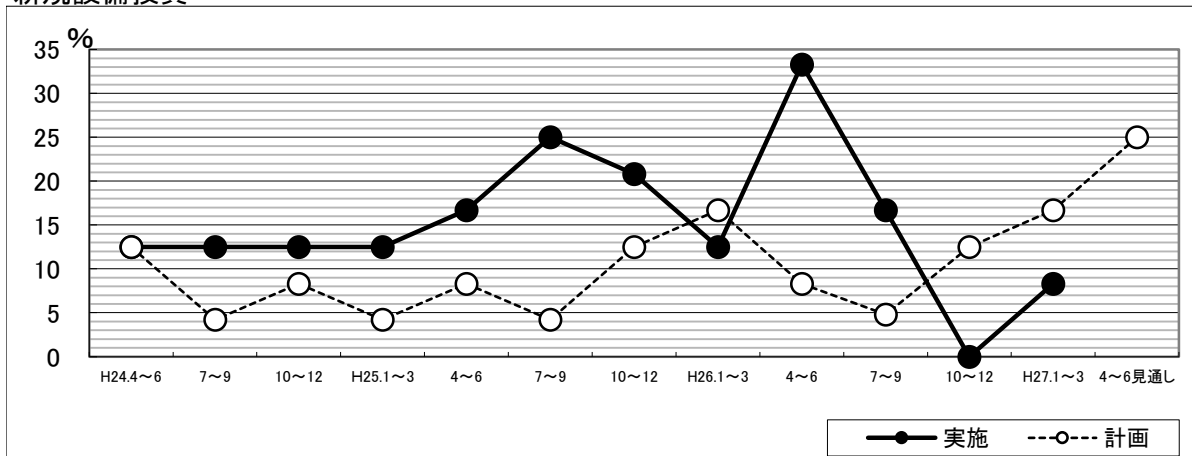
建設業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

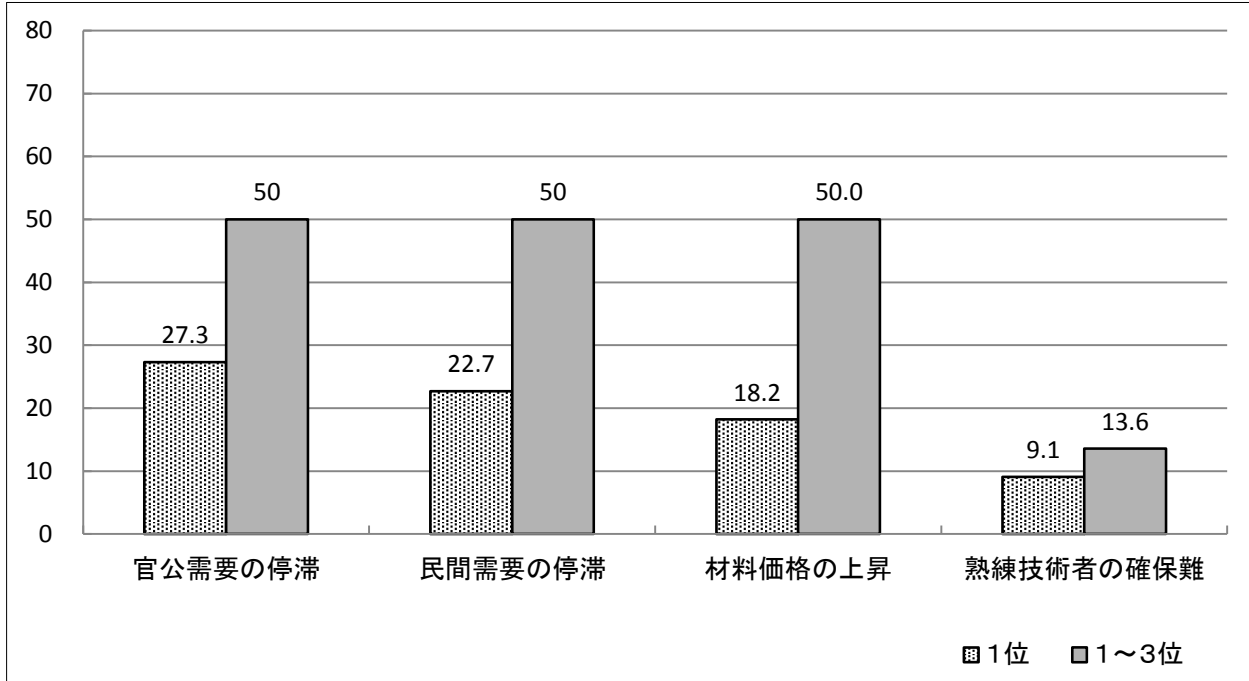
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.4~6	▲ 16.7	4.2	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 33.3
7~9	▲ 8.7	4.1	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 8.3	▲ 20.9
10~12	▲ 8.7	12.5	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 8.4	25.0	▲ 8.7	▲ 8.3	4.2	0.0
4~6	▲ 13.1	25.0	▲ 16.6	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 4.2
7~9	12.5	33.3	▲ 20.9	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 16.7
10~12	8.3	37.5	▲ 20.8	▲ 16.6	▲ 4.3	▲ 12.5
H26.1~3	20.8	37.5	▲ 8.7	4.2	▲ 4.4	4.2
4~6	20.8	62.5	▲ 8.3	4.2	▲ 4.3	20.8
7~9	▲ 4.2	54.2	▲ 12.5	▲ 4.2	13.0	0.0
10~12	▲ 16.7	54.2	▲ 16.7	4.2	13.1	▲ 12.5
H27.1~3	▲ 8.3	50.0	▲ 25.0	▲ 16.6	8.7	▲ 20.8
4~6見通し	▲ 29.2	20.9	▲ 33.3	▲ 12.5	▲ 8.7	▲ 25.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 公共工事は増加しているが、請負単価の上昇難、下請価格の上昇により利益の確保が難しい。
- ・ 短期的な引き合いはあるものの中長期的な見通しが立たない。

建設業の景況

福井県内における平成26年度（26年4月～27年3月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1.308億43百万円の前年同期比1.8%減、発注件数は同3,886件の同11.3%減となり、発注額、件数ともに前年度を下回っている。

これを主な発注者別でみると、県関連工事（550億2,700百万円の前年同期比15.5%増）、国家関連工事（205億3,300百万円の同15.3%増）で増加したものの、独立行政法人等で大幅減少（123億9,900百万円の同49.8%減）している。また、住宅投資については、平成26年4月～27年2月までの累計で、前年同期比21.9%減の3,982戸と、引き続き厳しい需要動向が続いている。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比28.2%減の2,756戸、貸家が同1.8%減の823戸であった。

こうした中で今回の景況調査では、売上高（前期▲16.7→今期▲8.3）と仕入単価（逆指数）（前期54.2→今期50.0）で改善がみられたものの、採算が前期▲16.7→今期▲25.0、資金繰りが前期4.2→今期▲16.6、従業員数が前期13.1→今期8.7、業況が前期▲12.5→今期▲20.8へと悪化傾向を示した。

また、先行き（H27年4～6月期）についても、仕入単価と資金繰りで改善が進むものの、それ以外の4項目では悪化予測となるなど、今しばらく一進一退の状況が続くものと思われる。

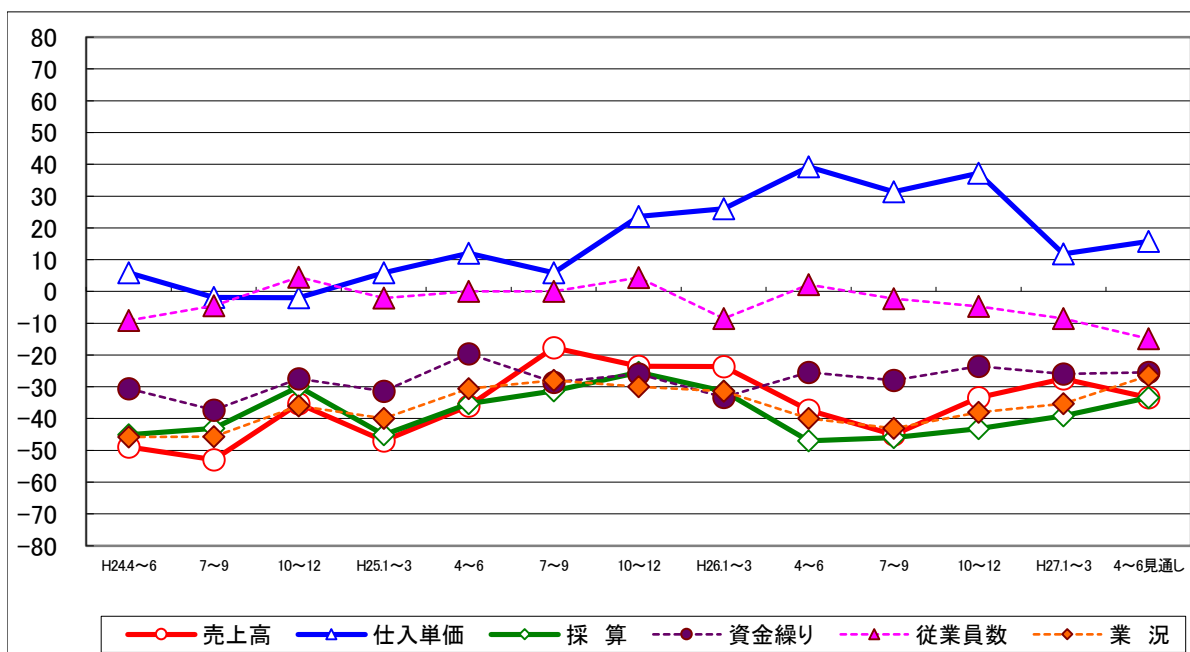
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画16.7%に対し実施した企業が8.3%と低調なものとなった。ただ、先行き（H27年4～6月期）については25.0%の企業で何らかの設備投資を計画しているなど比較的高い水準となっている。

最後に、経営上の問題点については、「官公需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト27.3%、1位～3位までに挙げた企業50.0%）、「民間需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト22.7%、1位～3位までに挙げた企業50.0%）を指摘する企業が比較的多く、総じて需要の低迷が同業界の恒常的課題となっていることがうかがえる。

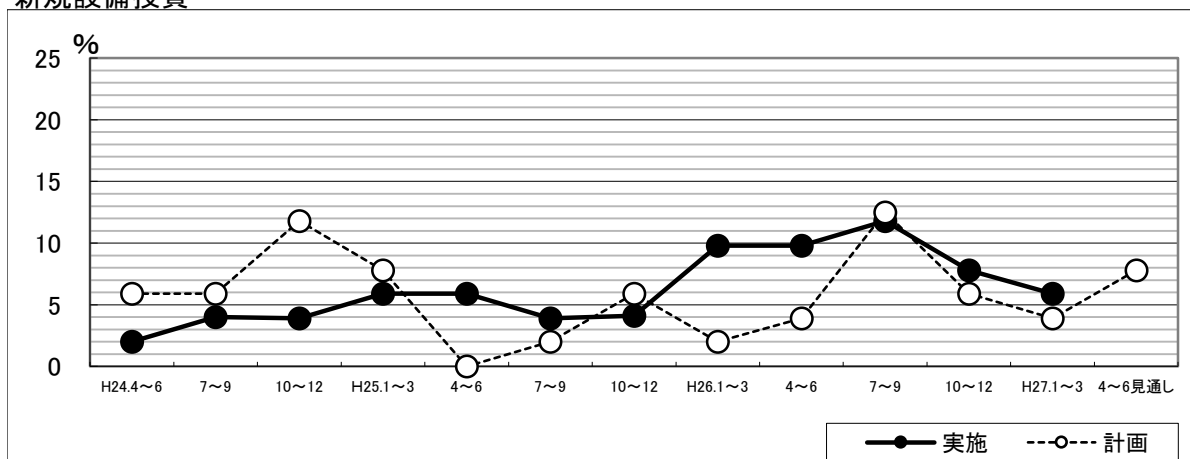
小売業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

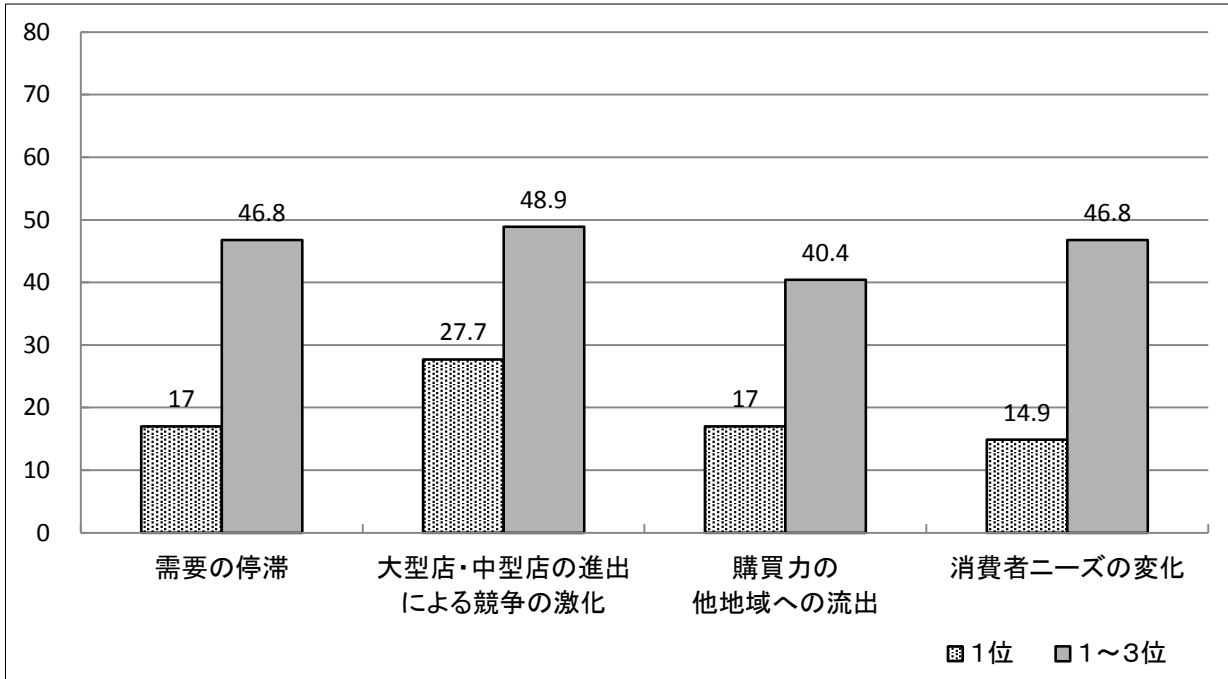
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.4~6	▲ 48.9	5.9	▲ 45.1	▲ 30.6	▲ 9.1	▲ 45.8
7~9	▲ 52.9	▲ 1.9	▲ 43.1	▲ 37.3	▲ 4.5	▲ 45.7
10~12	▲ 35.3	▲ 2.0	▲ 30.0	▲ 27.5	4.5	▲ 36.0
H25.1~3	▲ 47.0	5.9	▲ 45.1	▲ 31.4	▲ 2.1	▲ 40.0
4~6	▲ 36.0	12.0	▲ 35.3	▲ 19.6	0.0	▲ 30.6
7~9	▲ 17.7	5.9	▲ 31.3	▲ 28.6	0.0	▲ 28.0
10~12	▲ 23.5	23.6	▲ 25.5	▲ 26.0	4.4	▲ 30.0
H26.1~3	▲ 23.6	26.0	▲ 31.4	▲ 33.3	▲ 8.5	▲ 31.4
4~6	▲ 37.3	39.2	▲ 47.0	▲ 25.5	2.1	▲ 40.0
7~9	▲ 45.1	31.4	▲ 46.0	▲ 28.0	▲ 2.3	▲ 43.1
10~12	▲ 33.4	37.2	▲ 43.2	▲ 23.5	▲ 4.7	▲ 38.0
H27.1~3	▲ 27.5	11.8	▲ 39.2	▲ 26.0	▲ 8.5	▲ 35.3
4~6見通し	▲ 33.4	15.7	▲ 33.4	▲ 25.5	▲ 14.9	▲ 26.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・需要の停滞を感じている。好況感是我々の所までには届いていないように感じる。プレミアム商品券やその他の施策に見出したい。
- ・中心街の大型店との価格競争にさらされており、今後売上が減少することを危惧している。

小売業の景況

近畿経済産業局が毎月公表する大型小売店販売状況（百貨店＋スーパー）をみると、バレンタインなどの季節催事や春物商品、高額品等が好調に推移したほか、飲食料品なども堅調な動きとなったことから、全店ベースで前年同月比2.0%増の58億6,400万円と7か月連続で前年を上回った。

業態別では、コンビニエンスストア販売がカウンターフーズ等に動きがみられ順調に推移、ドラッグストアも品揃えの拡充により飲食料品に動きがみられたことなどから順調な動きとなったほか、家電量販店もパソコン等の動きは鈍いものの全体として持ち直している。ただ、ホームセンターは除雪用品等の動きが鈍いことなどから、弱い動きとなった。

こうした中、今回の景況調査では、6項目中、資金繰りと従業員数を除く4項目で改善傾向を示している。しかし、売上高、採算、業況などでは大幅な水面下にあり、改善傾向といっても停滞感はいまだ残っているものとみるべきであろう。

ちなみに、項目別では、売上高が前期▲33.4→今期▲27.5、仕入単価（逆指数）が前期37.2→今期11.8、採算が前期▲43.2→今期▲39.2、資金繰りが前期▲23.5→今期▲26.0、従業員数が前期▲4.7→今期▲8.5、業況が前期▲38.0→今期▲35.3であった。

また、今後の見通し（H27年4-6月期）については、採算、資金繰り、業況の3項目で改善予測となっている。

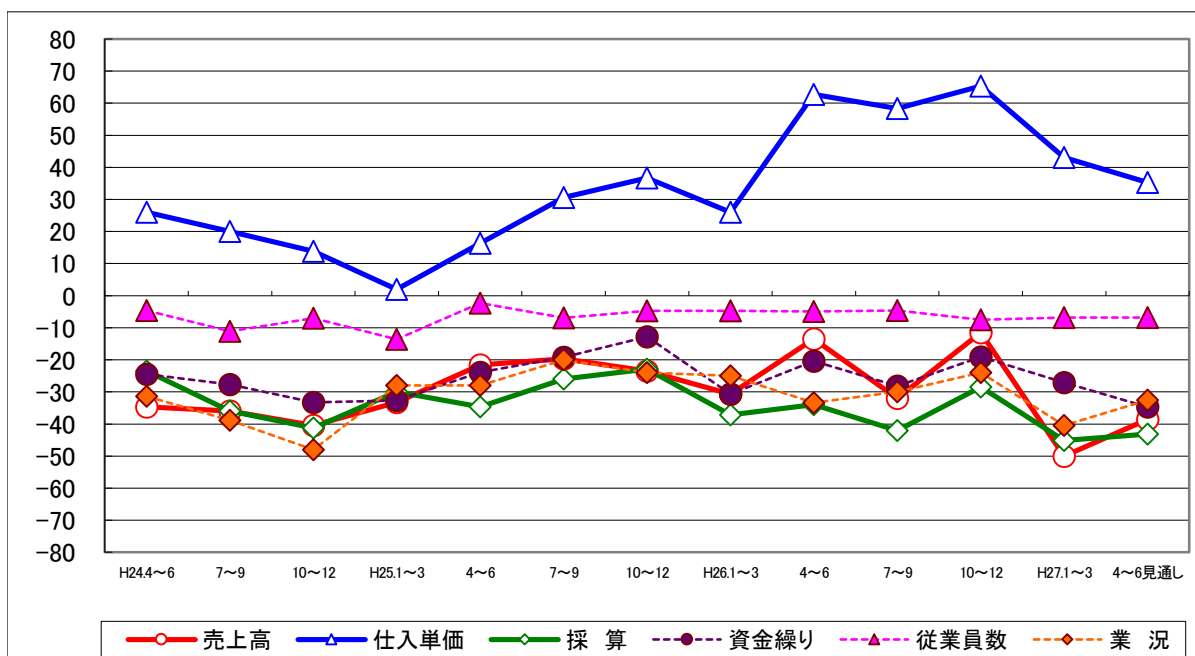
一方、新規設備投資の実施状況については、今期、計画の3.9%に対し実施が5.9%となったが、その水準は低く、先行き（H27年4-6月期）についても計画は7.8%にとどまっており、同業界における投資意欲の回復感は遠い。

最後に、経営上の問題点については、「大型店・中型店の進出による競争激化」（1位に挙げた企業ウエイト27.7%、1位～3位までに挙げた企業48.9%）や「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト17.0%、1位～3位までに挙げた企業46.8%）を指摘する企業が多いものの、「購買力の他地域への流出」、「消費ニーズの変化」への指摘も比較的多く、多様な課題が同業界に内在していることがわかる。

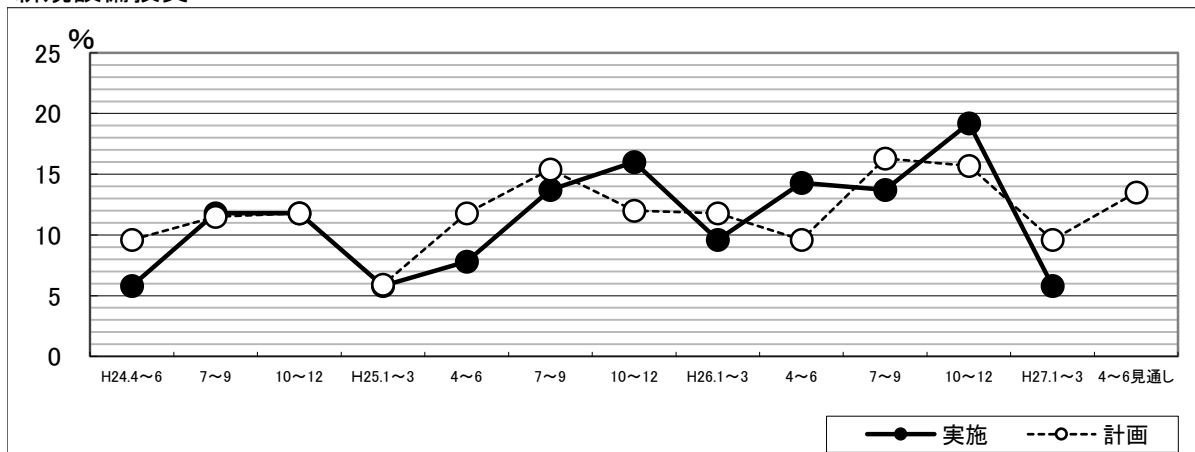
サービス業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

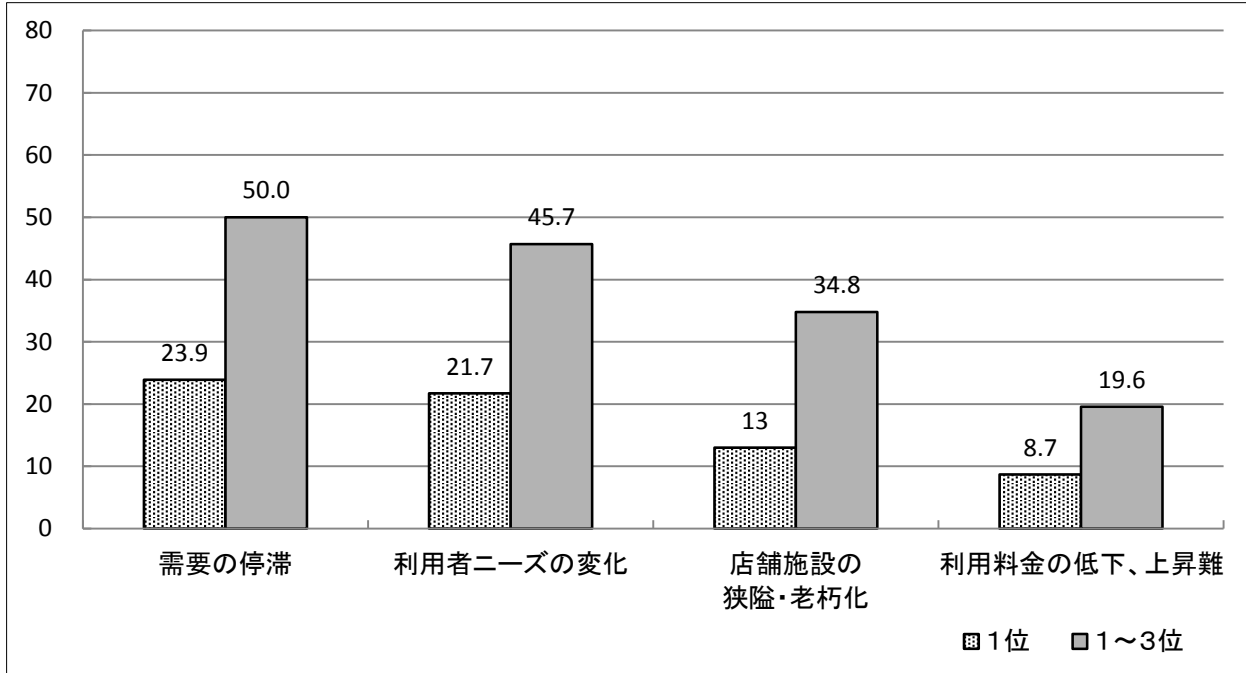
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.4~6	▲ 34.7	26.0	▲ 23.5	▲ 24.5	▲ 4.6	▲ 31.4
7~9	▲ 36.0	20.0	▲ 36.0	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 38.8
10~12	▲ 40.4	13.8	▲ 41.2	▲ 33.3	▲ 7.0	▲ 48.0
H25.1~3	▲ 33.3	2.0	▲ 30.0	▲ 32.7	▲ 13.6	▲ 28.0
4~6	▲ 21.6	16.3	▲ 34.7	▲ 23.9	▲ 2.3	▲ 28.0
7~9	▲ 19.7	30.6	▲ 26.0	▲ 19.2	▲ 6.9	▲ 20.0
10~12	▲ 23.5	36.7	▲ 22.9	▲ 12.8	▲ 4.7	▲ 24.0
H26.1~3	▲ 30.7	26.0	▲ 37.2	▲ 30.7	▲ 4.7	▲ 25.0
4~6	▲ 13.5	62.7	▲ 34.0	▲ 20.4	▲ 4.9	▲ 33.4
7~9	▲ 32.0	58.3	▲ 42.0	▲ 28.2	▲ 4.6	▲ 30.0
10~12	▲ 11.5	65.3	▲ 28.5	▲ 19.1	▲ 7.5	▲ 24.0
H27.1~3	▲ 50.0	43.1	▲ 45.1	▲ 27.1	▲ 6.8	▲ 40.4
4~6見通し	▲ 38.5	35.3	▲ 43.1	▲ 34.7	▲ 6.8	▲ 32.6



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・前期、前年同期と比べても厳しい状態にある。景気が上昇に転じている報道を聞いても、サービス業では無縁だと感じている。
- ・北陸新幹線金沢開業に伴い、より多くのお客様に来ていただけることを期待している。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する・平成27年1月の第3次産業活動指数（季節調整値、2005年=100）は100.4で前月比+1.4%の上昇となり、幾分持ち直している。

これを業種別にみると、「卸売業, 小売業」、「運輸業, 郵便業」、「学研究, 専門・技術サービス業」、「生活関連サービス業, 娯楽業」、「その他サービス業（公務等を除く）」、「医療, 福祉」、「情報通信業」、「複合サービス事業」が上昇。「電気・ガス・熱供給・水道業」、「金融業, 保険業」、「宿泊業, 飲食サービス業」、「不動産業, 物品賃貸業」、「学習支援業」が低下している。

しかし、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中、仕入単価（逆指数）、従業員数の2項目を除く4項目で悪化が進んだ。






項目別では、売上高が前期▲11.5→今期▲50.0、仕入単価（逆指数）が前期65.3→今期43.1、採算が前期▲28.5→今期▲45.1、資金繰りが前期▲19.1→今期▲27.1、従業員数が前期▲7.5→今期▲6.8、業況が前期▲24.0→今期▲40.4となっている。





























































これらを総括すると、同業界では、仕入単価の上昇基調が収まったとはいえその水準はまだ高く、恒常的な人手不足が根強いことなどから、引き続き予断を許さない状況にあることがうかがえる。また、先行き（H27年4-6月期）については、資金繰り、業況で悪化予測となっているものの、売上高、仕入単価、採算で改善予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画9.6%に対し実施が5.8%と低調なものとなっているものの、先行き（H27年4-6月期）については13.5%の企業で何らかの設備投資を計画しているなど、幾分改善が期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「需要の停滞」への回答が、1位に指摘した企業ウエイト23.9%、1位~3位までに指摘した企業ウエイト50.0%と高水準を示した。そのほか「利用者ニーズの変化」への指摘も比較的多く、1位に指摘した企業ウエイト21.7%、1位~3位までに指摘した企業ウエイト45.7%となっている。

全国・福井景気動向 平成27年1月～3月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～-100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 26.6	41.7	▲ 32.0	▲ 19.5	▲ 4.9	▲ 27.9
	製造業						
	DI値	▲ 14.0	48.0	▲ 24.9	▲ 14.7	▲ 2.6	▲ 17.1
	建設業						
	DI値	▲ 17.1	52.6	▲ 20.9	▲ 10.8	▲ 3.3	▲ 15.6
	小売業						
	DI値	▲ 42.8	29.9	▲ 42.2	▲ 27.5	▲ 5.6	▲ 43.4
	サービス業						
	DI値	▲ 25.2	42.9	▲ 32.7	▲ 19.7	▲ 6.6	▲ 27.3
福井	全体						
	DI値	▲ 25.0	37.0	▲ 33.2	▲ 22.2	▲ 3.9	▲ 26.9
	製造業						
	DI値	2.7	55.6	▲ 13.5	▲ 13.9	▲ 2.7	0.0
	建設業						
	DI値	▲ 8.3	50.0	▲ 25.0	▲ 16.6	8.7	▲ 20.8
	小売業						
	DI値	▲ 27.5	11.8	▲ 39.2	▲ 26.0	▲ 8.5	▲ 35.3
	サービス業						
	DI値	▲ 50.0	43.1	▲ 45.1	▲ 27.1	▲ 6.8	▲ 40.4

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。